

## 2. 1846次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡		
グリッド	L.56-41次		
所在地	東京都府中市本宿町1-43-8		
現地調査期間	令和2年4月28日～令和2年5月14日		
面積	21㎡	遺物出土量	コンテナ1箱(3袋)
検出遺構	溝1条(L.56-S.D46) [鎌倉・室町時代]		
調査担当者	西野善勝		
調査従事者	大澤一重(府中市遺跡調査会)、高崎修吾・横田龍介・大島進・岡崎誠二(株)Acube		

## 1 調査地区の概要

当調査地区は、武蔵国府関連遺跡の西府・本宿地域に位置し、JR南武線西府駅の北東約130m、甲州街道の南約230mに所在する。地形的には府中崖線から北約300mの立川段丘に立地する。遺構確認面は第IV層である。

当地区の北北西400mに位置する熊野神社境内には、飛鳥時代の古墳である国史跡武蔵府中熊野神社古墳がある。この古墳は、発掘調査で確認されたものとしては全国でも4例ほどしかない葺石の上円下方墳である。

当地区が所在する崖線上の台地縁辺には、縄文時代前期・中期の集落跡である本宿町遺跡や古墳時代後期・終末期の古墳群である御嶽塚古墳群が広がっている。さらに西府駅周辺では西府土地区画整理事業に伴う発掘調査以来、複数の箇所で大規模な区画溝が発見されている。

## 2 遺構と遺物

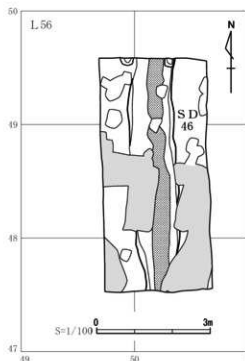
当地区の調査では溝1条とピット2基が確認された。

## 溝

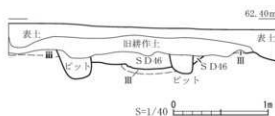
L.56-S.D46 調査区内を南北に走り、両端とも調査区外に延びる。規模は、長さ6.15m以上、検出面での幅約1m～1.2m、底部の幅0.9m～1m、深さ0.12m～0.5mを測り、断面形は皿形を呈する。遺物の出土が無いために開削、埋没時期の特定は難しいが、覆土は暗褐色を呈しており、鎌倉・室町時代の特徴を示す。底面には硬質面が認められた。遺物は出土していない。



第1846-1図 調査地区位置図(1/5,000)



第1846-2図 調査全体図



第1846-3図 北壁断面

### ビット

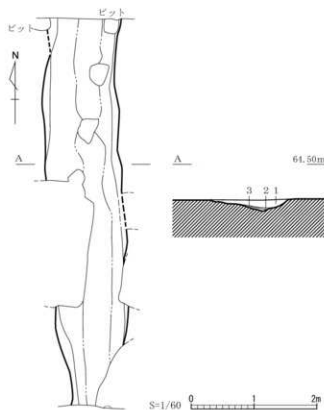
調査地区北端でビット2基が検出された。それぞれ一部が調査区外に及ぶ。規模はそれぞれ径0.2 m～0.35 m、深さ約0.15 m～0.2 mを測る。黒褐色土～黄褐色土を主体とする覆土を有する。L56-S D46を切っていることから、所産年代は鎌倉・室町時代以降ということになるだろう。遺物は出土していない。

### 表土・攪乱からの出土遺物

表土から古代の土師器片1点、攪乱土の中から古代の土師器片2点、近世の陶磁器片2点が見つかった。いずれも小片で、図化には至らなかった。

### 3 まとめ

今回の調査で検出したL56-S D46の底面には、硬質面が認められた。これは人の通行があったことを示すものと考えられる。調査区南西約190 mに位置する西府駅の北側では、中世の大規模な区画溝の中には硬化層を持つことから道路跡と考えられたものもある。この遺構も道路として使用されたものと考えられる。



第1846-4図 L56-S D46実測図

#### L56-S D46 土層観察表

1. 黒褐色土 ローム粒小粒少量、橙色粒小粒微量含む、しまりやや弱、粘性やや弱。
2. 黒褐色土 ローム粒小粒少量、橙色粒小粒微量含む、しまりやや強、粘性やや弱、やや硬化した層。
3. 黄褐色土 暗褐色土少量含む、しまり強、粘性やや強、S D46使用時における自然硬化。



第1846-5図 L56-S D46断面(南)



第 1846-6 図  
調査地区全景（南）



第 1846-7 図  
L 56-S D 46 硬化面全景（南）



第 1846-8 図  
北壁断面（南）